

第2期岩手県海岸漂着物対策推進地域計画（最終案）について

1 策定の趣旨

- 海洋プラスチックごみなどによる地球規模での海洋環境の汚染が懸念されることから、県では、令和元年度に、海岸漂着物処理推進法に基づく地域計画（以下「現計画」という。）を策定し、**海岸漂着物等の円滑処理、効果的な発生抑制等の取組を実施**してきている。
- 現計画の終期が令和4年度であることから、本県の海岸漂着物等の現状と課題を踏まえた、**第2期岩手県海岸漂着物対策推進地域計画**（以下「第2期計画」という。）を**策定**しようとするもの。

2 計画期間

令和5年度～令和8年度（4年間）

3 現状と課題

(1) 現状

- 定期的なモニタリングの結果、県内の**海岸・海域**において**プラスチックごみを確認**
- 現計画において、海岸等の清掃活動、海洋ごみの環境学習等の施策を推進したことで、**海岸漂着物等対策が浸透**

(2) 課題

- 海や川への**プラスチックごみ流出の抑制の取組、モニタリングの継続が必要**
- **内陸部を含めた取組の更なる浸透や、そうした取組を担っていく団体・個人が高齢化・固定化していることから、長期的に取り組んでいくためには、① 活動が継続できる支援や環境保全団体の担い手育成、② 県民一人ひとりがごみ排出を抑制する行動を促すことが必要**

4 第2期計画の内容

- 第1章から第7章で構成（現計画と同じ）
（基本的事項、海岸特性、現状と課題、基本方針、対策内容、役割分担、配慮すべき事項）
- 第4章（基本方針）は、現計画を踏襲したうえで、「プラスチック資源循環促進法に基づくプラスチックごみの削減」、「環境保全団体の担い手育成と必要な支援」、「県民参加型の環境美化活動の推進」を明記
- 第5章（対策内容）において、次の取組の強化を明記
 - ① 地域で**海岸・河川清掃、普及啓発活動等の中核的役割を担う人材の育成・支援**
 - ② **県民参加型の環境美化活動の取組**

5 策定過程及びパブリック・コメントの意見反映状況

- 学識経験者、各団体の代表、沿岸自治体等からなる「**岩手県海岸漂着物対策推進協議会**」を3回（令和4年6月、9月、11月）開催し、**各委員の意見を反映**。さらに、各市町村、環境保全団体、主要河川の流域圏である青森県・秋田県・宮城県にも意見照会し、計画に反映

- 令和4年12月9日から令和5年1月13日にかけてパブリック・コメント、説明会（WEB・延べ16名参加）を開催し、**2名・5件の意見**の提出があった（3ページに記載）。これらの意見は、施策推進に係る意見であり、第2期計画に掲げる**施策遂行の参考**とする。

6 今後のスケジュール

令和5年2月定例県議会・環境福祉委員会において報告のうえ、**令和5年3月中旬**を目途に策定する。

7 第2期計画最終案

- | | |
|------------------|----------|
| (1) 第2期計画最終案の概要 | 資料 2 - 2 |
| (2) 第2期計画最終案（本文） | 資料 2 - 3 |

(別表)

意見検討結果一覧表

(案件：第2期岩手県海岸漂着物対策推進地域計画(案)に係る意見募集について)

番号	(案)				ページ	意 見	検討結果(県の考え方)	決定への 反映状況
	章	節	項	項目名				
1	3	2	(2)	海岸漂着物等の発生抑制に関する県内の取組状況	26	ゴミの不法投棄防止を図るために6月と10月を不法投棄追放月間に設定とあるが、強化月間や強化月間中の取り組みについての県民への普及活動を行うと、県民の不法投棄に対する意識が高まり、不法投棄を減らすことに繋がるのではないかと。	海岸漂着物等は内陸部のごみが河川を通じて海洋に流出していることが発生要因と考えられることから、ごみの不法投棄対策の強化が必要です。不法投棄追放月間はもとより、日頃から県民に対する普及啓発活動を通じながら、不法投棄を防止する対策を進めていきます。	D(参考)
2	5	2	(2)	海岸漂着物等の効果的な発生抑制	41	エコ協力店いわて認定事業についての記述があったが、エコ協力店には補助金の交付などの認証マークを用いて環境に配慮しているアピールができることなど以外のメリットを与えると、認定店になろうとする店が増加し、リサイクル促進やごみの減量に繋がるのではないかと。	海岸漂着物等を減らすためにも、小売店等の3R(リユース、リデュース、リサイクル)の取組推進が必要なことから、県では「エコ協力店いわて」認定制度を設け、認定店による3Rの推進を支援しています。3Rを進める事業者を拡大していくため、認定店に認定された場合の良さ(SDGsへの貢献、企業イメージの向上等)を周知し、かつ必要な普及啓発資材を提供しながら、普及に努めていきます。 御意見のあった、エコ協力店を増やしていくためのメリットの付与に関しては、認定店や有識者の意見なども参考としながら、必要な対策を検討していきます。	D(参考)
3	5	2	(3)	環境学習・普及啓発	43	住民・団体がごみを回収する自主的な取組を促進する意識啓発ツールについて書かれていたが、ツールは河川・海岸だけでなく、企業などが町や森で行なったゴミ拾い活動など他の清掃活動にも適用されるとより多くの市民のゴミに対する意識啓発に繋がっていくのではないかと。	御意見のとおり、県民が主体的に環境美化活動に関心を持ち、参画していく意識啓発ツールについては、河川・海岸のごみに限らず、街中のごみ等のごみ拾い活動などの環境美化活動にも活用していく内容も検討することとしています。 多くの県民の皆様はもとより、環境美化活動に参画する企業も参加できる仕組みを検討して参ります。	D(参考)
4	5	2	(3)	環境学習・普及啓発	43	海岸漂着物等の現状や処理・抑制対策推進などの普及啓発についての記述があったが、普及啓発に係る広報を行う際に大谷翔平さんや戸塚純貴さんなどの岩手県にゆかりがあり、かつ県民からの認知度が高い人に出演していただくとすると良いのではないかと。	海岸漂着物等を減らすためには、全県民の皆様の御協力が必要と考えていることから、普及啓発に当たっては、いただいた意見も参考としながら、効果的な広報を展開していくよう努めます。	D(参考)
5	3	3	コラム	私たちの生活から発生する「マイクロプラスチック」	33	マイクロプラスチックを摂取した魚は最終的にどうなるのか。	マイクロプラスチックは体内では分解できないことから、魚がマイクロプラスチックを摂取し続けた場合、胃などの消化器官に蓄積されます。そして、満腹感があることから餌を摂取することができず、栄養失調となり、餓死する可能性があります。	F(その他)

備考1「類似意見件数」欄については、類似の意見をまとめて公表するときに当該類似の意見の件数の記入に用いるものとし、それ以外のときは削除するものとします。

2「決定への反映状況」欄には、次に掲げる区分を記載するものとします。

区 分	内 容
A(全部反映)	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの
B(一部反映)	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの
C(趣旨同一)	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの
D(参考)	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの
E(対応困難)	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの
F(その他)	その他のもの(計画等の案の内容に関する質問等)